

# 外からの虫対策 屋外調査の重要性



虫種からの発生源推定が困難な例  
クロコキブリの発生源は、空調室外機や  
自販機周辺などの屋外、排水溝周りなどの  
屋内との両方が考えられる。

工場内でのモニタリングにおいて、業種を問わず、必ずといってよいほど捕獲されるのが屋外から侵入する虫だ。建物周辺の緑地や水路などを発生源とするこれらの虫の、根本的な対策は困難である。しかし、放置するより仕方がないわけではない。むしろ、可能な範囲で積極的に対策を行わなければならない。

## 「屋外からの侵入」に根拠を

そもそも、「屋外から侵入している」とされる虫は、本当に屋外で発生しているのだろうか。多くの場合、実際にその虫であると考えられるものの、捕獲された虫の生態から発生場所を推定し、屋外だと判断しているに過ぎないともいえる。また、屋外で発生しているとするれば、屋外のどこから発生している、どこに多いのか。これらの点についても、明確にされることはあまりない。明確でなくとも、出入口や隙間の対策を行えば一定の効果が得られるためである。しかし、このような手法は確かな根拠に基づくものではなく、防虫対策として最適なものとはいえないだろう。



屋外に設置した粘着トラップ  
アウターフレームを用いれば、  
場所を問わず設置が可能。

ただ、屋内で使用している資材をそのまま屋外で使うことには、風雨による汚損や紛失など色々な問題がある。当社では、アウターフレームなど、屋外調査用の資材を扱っているため、活用をお勧めしたい。

「こうした問題を解消するためには、専ら屋内で行われるモニタリング調査を屋外でも行う必要がある。屋内のモニタリングで捕獲されている虫と同じものが屋外でも捕獲されれば、確かに屋外から虫が侵入していることの証拠となる。また、敷地外にある発生源を明らかにすることは困難であるにせよ、建物外周のどこに虫が多いのかというところだけでも明らかにできれば、その結果を反映した対策をとることもできる。

## 屋外でもモニタリング調査

また、屋外の調査に関連して、今関心が高まっているのがヒアリである。ヒアリの対策として安易に薬剤を使用しても、ほとんどの場合は在来アリが無為に駆除されるのみであり、このようなことは行うべきではない。環境省が推奨しているのは、まず調査を行い、ヒアリの存在を確認してから初めて薬剤使用などを検討することである。もちろん、この調査にもアウターフレームは大いに役立つものである。



August.2017 vol.92

発行所 / 株式会社フジ環境サービス 技術グループ  
発行人 / 山本幸弘  
編集人 / 恩田翔太  
愛知県岩倉市鈴井町中島96番地  
〒482-0035 ☎ 0587-66-6218  
✉ gjjyutsubu@fujikankyo.co.jp

## 今月の虫予報 Insect Phase Forecast

虫種	発生状況				
	少				多
ユスリカ					
クロバネキノコバエ					
コナチャタテ					
チョウバエ					
翅アリ					

多くの虫の発生数は引き続き多いものの、ピークはやや下回るとみられる。チョウバエなどの汚水系発生虫は、依然、発生がピークが続く。トビイロケアリの群飛は終息に向かうが、中旬以降にはキイロシリアゲアリの翅アリが出現する。このため、先月ほどではないが翅アリの発生数は多い状態が続く。やはり照明に強く誘引される。

## 屋外侵入虫 そしてヒアリ対策 アウターフレーム

## 防虫用語の基礎知識

「森林」や「池沼」のような棲息環境（ハビタット）から、「枯れ木や「糞」といったより小さな対象（微棲息環境：マイクロハビタット）まで指す。防虫上、虫の発生源は4種に大別される。即ち、屋内（建物内部）、水系（排水溝、浄化槽など）、水域（水路、河川など）、緑地（雑草地、山林など）で、虫の科ないし目（もく）により概ねいずれか1つに該当する。しかし、虫によっては必ずしも発生源を1つに絞れない場合や、例外的な場合もあるため、注意を要する。



### 発生源（はっせいげん）

虫の発生する場所やものこと。「森林」や「池沼」のような棲息環境（ハビタット）から、「枯れ木や「糞」といったより小さな対象（微棲息環境：マイクロハビタット）まで指す。防虫上、虫の発生源は4種に大別される。即ち、屋内（建物内部）、水系（排水溝、浄化槽など）、水域（水路、河川など）、緑地（雑草地、山林など）で、虫の科ないし目（もく）により概ねいずれか1つに該当する。しかし、虫によっては必ずしも発生源を1つに絞れない場合や、例外的な場合もあるため、注意を要する。

### 南国のヒグラシの声

10年あまり前に奄美大島を訪れた時のこと。夕方、「キーキキキキ」という感じに鳴くセミの声が森のあちこちで聞かれた。初めて聞く声だったか、強いていえばヒグラシに近いだろうか。一般に「カナカナ」と表現される（個人的には、ククイキキキキ...という感じに思えるが）あの鳴き声である。声の主を探し出してみると、その姿はどう見てもヒグラシそのものであった。後日調べたところ、奄美には本土とは鳴き声の異なるヒグラシがいるとの事実を知った。間延びした声は本土のものとは大層印象が異なるが、一応は真正銘のヒグラシであるらしい。



八重山で夕方に鳴くもう1種のセミ、タイワンヒグラシ。ヒグラシとは全く異なる、暑苦しげな声で鳴く。

本紙への「意見」感想を是非ともお寄せ下さい。発行所宛にメールをくだされと、とてもうれしいです。ご意見を取り入れてさせて頂いた方には粗品を進呈します。

# 工場外周囲のモニタリング調査は

# アウターフレームで!

粘着トラップ専用の金属製カバーアウターフレームが、今までできなかった場所でのモニタリング調査を可能にします。

- ①屋外で粘着トラップが風や水で流されることを防ぎます。
- ②特殊素材でできており、錆で建物を汚しません。
- ③トラップを覆い隠し、内部（捕獲虫）が見えにくい構造です。



H80mm × W250mm × D85mm

H型(三角型トラップ用)



H55mm × W250mm × D90mm

L型(台形型トラップ用)

上部フタは  
取り外しが可能

側面および底面の端に2箇所ずつ  
本体固定用の穴が存在



トラップは底面に  
両面テープなどで固定

## 使用素材

### 高耐食性鋼板

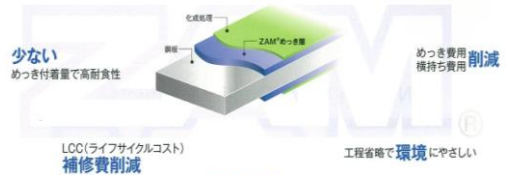
Nisshin Steel Quality Products



亜鉛(Zn)-6%アルミニウム(Al)-3%マグネシウム(Mg)  
のめっき層をもつ新しい溶融メッキ鋼板

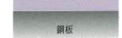
長寿命化

後めっきの代替可能



#### ■平坦部の耐食メカニズム

溶融亜鉛めっき

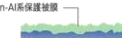
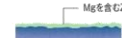


酸化亜鉛主体の白錆



赤錆発生

ZAM



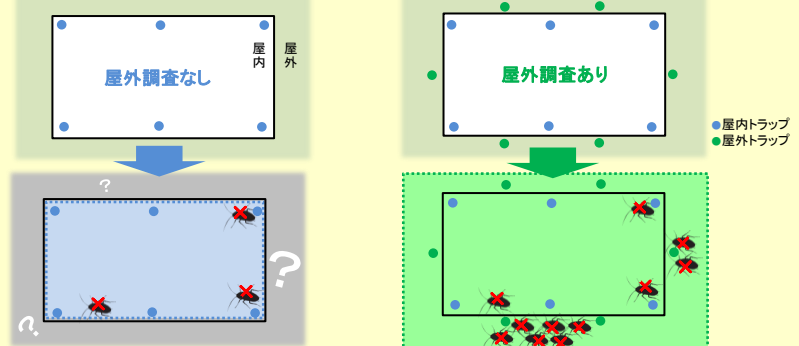
## アウターフレームの捕虫調査方法



- ・屋外のどんな場所にも設置が可能
- ・屋内でもトラップの固定・紛失防止に効果的

## なぜ屋外でのモニタリング調査が必要か？

薬剤処理などの防虫対策は、モニタリング調査の結果に基づいて行います。調査は屋内のみで行われるのが一般的ですが…



屋外の生息状況を把握できず、対策が行き届かない

全ての発生場所が明らかになり、対策が可能

**虫の屋内外における生息状況・対策を打つべき箇所が明確に!**

屋内外でモニタリング調査を行うことで、問題となる虫の対策をより適確に行うことができます

### 【販売元】



株式会社フジ環境サービス



ISO9001 認証・ISO14001 認証/本社にて適応

本社 〒482-0035 愛知県岩倉市鈴井町中島 96 番地 TEL.0587(66)6218 FAX.0587(37)7768

三河 〒442-0886 愛知県豊川市牛久保駅通 5 丁目 19-2 TEL.0533(86)1835 FAX.0533(86)1734

北陸 〒921-8012 石川県金沢市本江町 9 番地 14 号 TEL.076(287)3971 FAX.076(287)3972  
サンパード金沢ビル 202 号